

日本神経精神薬理学会 第49回理事会（2011年度）議事録

日 時：2011年6月3日（金）15:00～18:00

場 所：八重洲倶楽部 第2会議室

（〒104-0028 東京都中央区八重洲2-1 八重洲地下街中1号 TEL：03-3275-0801）

出席者：山脇成人（理事長）、池田和隆、石郷岡純、大熊誠太郎、大森哲郎、荻田喜代一、鈴木 勉
仲田義啓、中村 純、西川 徹、野村総一郎、南 雅文、山田清文、山本経之 各理事
加藤進昌、馬場明道 各監事

欠席者：神庭重信、曾良一郎 各理事、米田幸雄、齋藤利和 各アドバイザー

記 録：中川庸幸（事務局：学会支援機構）

はじめに、山脇理事長からこれまでの今回承認予定の議事録（案）を資料として、新入会・新評議員承認手続きの迅速性と簡素化、Skype を利用した迅速な決議・会議の運用、各種委員会委員の承認と立上げ、AsCNP をはじめとした国際学会の動向など、就任後のこれまでの理事会活動についての概要が報告された。

また、前回（第47回）理事会議事録（案）、2010年度（第40回）評議員会／総会議事録（案）、第48回理事会議事録（案）、第1回 Skype 理事会議事録（案）、持ち回り理事会議決事項の一覧が提出され、異議なく了承された。

I. 報告事項

1. 各委員会報告

a. 総務委員会（池田理事）

1) 以下の通り会員報告（2010年12月1日から2011年5月31日）がなされた。

会員数：1,182名（2011年5月31日現在）

内 訳：名誉会員 24名、評議員 179名、正会員 936名、学生会員 23名

賛助会員 20社

新入会： 34名

退 会：本人申出 38名

逝 去 3名

物 故 者 一般会員 貴船 亮先生 2011年1月30日 ご逝去

評 議 員 西村 健先生 2008年 ご逝去

一般会員 関 昌家先生 2010年4月27日 ご逝去

2) 2011年5月10日（月）10:00～11:30にSkypeによる第1回総務委員会を開催し、以下の内容を協議した。

(1) 賛助会員制度の見直し…学会の方向性とCOI制度との関連性を考慮する。

(2) AsCNP 関連について…セントラルオフィス及び機関誌は韓国が担当したいとの強いアプローチがあるため、日本も積極的に主導的な立場で責任を果たしていく必要がある。

(3) 日本臨床神経精神薬理学会（以下、CNP）との関係について

(4) 会員の質と数の向上について（会員のメリットを明確にする）

(5) 5月19日の総務委員会について

3) 2011年5月16日（木）16:00～18:30にて、東京ベイ有明ワシントンホテル「モクレン」にて、対面式の第2回総務委員会を開催し、以下の内容を協議した。

(1) 賛助会員制度について…退会届が提出された会社については、事情を考慮し受理することとした。企業側がどのような連携したいのか、企業のキーパーソンにアンケートを行い、関係の深い先生に協力をお願いし、新しい連携を模索していく。

(2) AsCNP 関連について

(3) CNP との統合問題について

統合問題について CNP は保留のままとなっているが、これまで議論されてきた NP

としての統合問題に対するスタンスを再確認しておく必要がある。

統合に際しては、以下のような条件を提示することが確認された。

- ① 新学会名は「日本精神神経薬理学会」として、臨床は削除する。
- ② 「正会員」以外の会員の呼称を「本会員」とし、両者の学会における権利は同じとする。なお、正会員は「専門医および専門医を目指す会員」とし、医師でも「本会員」となることができるとする。
- ③ 統合は対等合併とする。
- ④ 新学会は既に法人化している CNP の法人格を用いるが、定款を改訂して動物実験など基礎研究を対象研究に含める。
- ⑤ 統合に際しては、相互の立場を尊重する。

同委員会の次の日である5月17日にCNPの理事会があり、NP側のスタンスを提示できるよう、上記5項目について、急遽当会理事会内の意見統一を行ったが、特に主だった進展はなかったことが報告された。

(4) 学生会員の入会登録と継続手続きについて

(5) 会員名簿作成のための調査について

調査フォームが提示され、メール登録の依頼、新専門領域の調査、統合に関する賛否を併せて調査することとなった。

なお、統合問題に関する賛否調査の結果については、2011年の合同年会時に統合に関するシンポジウムが企画されているので、全体アンケートの結果を報告できるよう進めることとなった。

4) 2011年6月3日(金)18:00~19:00に、八重洲倶楽部第5会議室にて、CNPとの統合問題を主として、協議する予定である。

b. 広報委員会(池田理事)

資料に基づき、本学会ホームページの更新、改訂案の提案がなされ、委員会の方針を承認し、リニューアル作業を進めていくこととなった。

1) 学会ホームページの更新、改訂

(1) 3, 4年前から更新されていないページの更新(委員会情報、理事会議事など)

(2) トップページを見やすくして、閲覧者のニーズに応える。

特に年会情報へのアクセスを良くする。

(3) 英語ページの作成

(4) 新薬情報など、トランスレーショナルリサーチの情報を掲載

(年会で発表された新薬または新薬候補関連の演題についてHPに掲載する案については、理事会で検討し時期尚早とのことから様子を見ていくことになった。)

(5) 専門薬剤師向け情報(年会での研修講座、ポイント数などの情報)の掲載

(6) 学会概要(会員数、年会参加者数、評議員名など)の掲載

(7) 改訂は数万円程度の費用にとどめて一通り行い、

必要があればウェブデザイナーに委託して改訂する。

2) E-mailの活用

(1) 広報委員会からのお知らせを適宜送信

(2) 入会申込書と評議員推薦書の様式をメールに添付

3) 年会企画

(1) 可能ならば平成24年度年会から、広報委員会企画の催しを計画

(2) 広報委員会特別企画「若手研究者の将来を考えるーアカデミックと企業で働くことー」

4) 役割分担

橋本亮太委員: 若手会員向け広報、HP英語版作成、年会での広報委員会企画

野村理朗委員: HPの改訂

梶井 靖委員: HPでの新薬情報、企業会員向け広報、

企業情報に関心がある学生会員に向けた広報
新田淳美委員：女性会員向け広報、年会での広報委員会企画
吉尾 隆委員：薬剤師（特に、専門薬剤師を目指す薬剤師）向け広報
山田光彦委員：精神科医向け広報、生物学的精神医学会広報委員会との連携

c. 編集委員会（南 理事）

雑誌刊行状況、依頼状況、査読状況につき以下の報告がなされた。

1. 刊行状況、依頼状況、査読状況

1) 刊行状況

30 巻（2010 年）：総説 21，MR 7，原著 1 を掲載。

31 巻（2011 年）：総説 6，MR 4，原著 2，短報 1 と CINP 優秀賞の特集を掲載。

また、3 号にはワーキンググループによる震災被災地の視察報告を掲載予定。

2) 依頼状況

依頼論文で今年ご寄稿いただいた原稿は 1 編である（学会シンポジウムは除く）。

3) 投稿状況

2010 年の投稿は原著 3 編（うち英文 1）である。

2011 年の投稿は MR 1，原著 1（うち英文 1），短報 1 の計 3 編である。

（2011 年 5 月 27 日現在）

2. 執筆依頼・企画

例年どおり、2010 年の学会シンポジウムの依頼原稿を掲載していく。

3. 今後の学会誌のあり方・発展性について

学会誌のあり方については、近年掲載記事の減少もあり、学術賞のあり方、CNP との統合問題（機関誌の統合）、AsCNP の機関誌問題なども考慮し、議論を進めてきた。日本神経精神薬理学雑誌は、PubMed に掲載されている雑誌でもあるため、その利点を活かした運用も視野に入れて、関連問題と併せて引き続き検討していくこととなった。

d. 財務委員会（大熊理事）

審議事項にて掲載。

e. 国際学術委員会（大森理事）

報告事項は特になし。

f. 学術賞選考委員会（山田理事）

1. 2011 年度の学術賞の選考について

本年の審査対象は原著論文 1 編であったが、規定の年齢制限により審査対象外であることが報告された。ミニレビューについては、同じく 1 編が候補として上がったが、依頼原稿のため、審査対象外としていた。理事会での確認の結果、本賞の趣旨から審査対象となることを確認し、現行の学術賞規定に沿って、選考委員会で審査することとなった。

なお、ミニレビューが学術賞の対象となること、依頼原稿であっても査読を行っており、審査対象になることが改めて確認された。

2. 学術賞のあり方について

当会の学術賞のあり方については、前期の学術賞選考委員会で編集委員会とも協力し、議論を重ねてきた。

昨年第 40 回年会時の理事会では、従来の「学術賞」を「論文賞」に置き換え、また新たな賞として「学術奨励賞」を新設することで、規定および申請書類案を提出したが、議論が煮詰まっていないとの点から、次期執行部へ継続審議事項として引き継がれている。これまでの協議経過の報告受け、各理事より様々な意見が出された。

当初、本会の「学術賞」は、審査対象論文も多かったため、高得点での審査を経た受賞決

定となっていたが、ここ数年は審査対象論文が激減し、受賞者不在の年も目立つようになった。

以上のこれまでの現状、協議結果を受けて、本理事会としては、現在の学術賞を論文賞へ変更する方針を確認し、新たに学術奨励賞を新設する。「論文賞規定」および「学術奨励賞規定」をそれぞれ草案し、新賞設置のため、委員会へ審議を依頼することとなった。

3. AsCNP2011 優秀演題賞について

山田委員長から現在の応募状況と選考手続きについての説明がなされ、提案どおり進めることが承認された。

g. 長期計画委員会 (NP・CNP 合同委員会対応委員会) (石郷岡理事)

2011 年合同年会時の合同委員会に向けて、調整していくことが報告された。

h. 研究推進委員会 (曾良理事欠席のため山協理事長から報告)

報告事項は特になし。

i. 倫理委員会 (中村理事)

日本精神神経学会が COI の策定を整えているので、参考にしながら当会の対応・方針を考えていくことが報告された。

2. JSNP 東日本大震災対策 WG 報告 (山田理事)

1) 山田理事から JSNP 東日本大震災対策 WG の立上げの経緯と視察報告がなされた。

2011 年 4 月 13 日から 14 日に WG メンバーである山田清文理事、曾良一郎理事、池田和隆理事の 3 名で石巻市を視察した。

4 月 13 日午後、石巻赤十字病院と石巻地区避難所 (渡波小学校) を視察、14 日午前は東北大学病院薬剤部と宮城県保健福祉部薬務課、14 日午後は宮城県公務研修所、宮城県薬剤師会および東北薬科大学を視察して関係者と面談した。

県の薬務課に支援された薬品等が届いているが、現場に届けられていない現状が多くあり、緊急支援医薬品の管理・手続きについてシステムを構築する必要があることが報告された。

JSNP 東日本大震災対策WGメンバー

山田清文 (名古屋大院・医・医療薬学・薬剤部、WGリーダー)

曾良一郎 (東北大院・医・精神神経生物学)

池田和隆 (東京都医学総合研究所)

溝口広一 (東北薬科大学・機能形態学)

JSNP 東日本大震災対策WG顧問および被災地視察協力者

鍋島俊隆 (名城大・薬・教授、WG顧問)

現地におけるWG活動に関するアドバイス

中里信和 (東北大・医・てんかん科、WG顧問)

現地における医療活動に関連する情報提供

松田公子 (日病薬、副会長、被災地視察協力者)

現地における薬剤師の活動の情報提供、宮城県薬との連絡調整

2) 日本学術会議を通して、内閣府からの東日本大震災への学術団体としての対応についての意見募集があり、当会から以下の提言を行った。

『日本製薬工業協会などから無償提供された災害支援医薬品の被災地への搬送と情報提供に問題があり、これら医薬品の有効活用が十分に行われていなかった可能性が浮かび上がった。また、支援医薬品に関する情報を一元的に管理し、それを有効活用するシステム整備が不十分であることも判明した。この問題の解決には薬剤師の活動が不可欠であり、今回の調査でも薬剤師の重要性が報告されている。そこで、日本神経精神薬理学会として、「災害時医薬品活用システムの構築に関する研究」を提案する。本研究では、日本病院薬剤師会や日本薬剤師会等と連携し、災害時における緊急支援医薬品の管理と情報提供に関するシステム構築のための研

究を実施する。さらに、薬剤師の災害時対応の教育システムについても検討する。』
3) 2011 年合同年会時に震災対策に関連した NP・CNP 合同シンポジウムを開催することとなった。

3. CINP/ECNP/ACNP/AsCNP 報告 (山脇理事長)

以下の国際学会関連の活動報告がなされた。

- 1) 2009 年 12 月 8 日に 2009 CINP/ECNP/ACNP Leadership Meeting が開催され、日本からは山脇理事長 (AsCNP 理事長) が出席した。Leadership Meeting では、AsCNP の設立がかなり重要視されていることが報告された。
- 2) AsCNP、ACNP、ECNP、CINP との連携構想がスタートしており、ECNP の提案で 4 学会合同の Nomenclature Committee が結成され、向精神薬の新しい分類名称について製薬会社主導ではなく、アカデミア主導の命名法を検討する議論が始まったことが報告された。

4. 第 41 回年会 (第 21 回日本臨床精神神経薬理学会と合同開催) 準備状況報告 (鈴木会長)

資料に基づき、鈴木会長からシンポジウム、特別講演、シンポジウム等の企画報告がなされた。

日 時：2011 年 10 月 27 日 (木) ～29 日 (土)

会 場：京王プラザホテル

会 長：鈴木 勉 (星薬科大学薬品毒性学教室・教授)

※第 21 回日本臨床精神神経薬理学会

野村総一郎会長 (防衛医科大学校精神科科学講座・教授) と合同開催

なお、10 月 27 日の 17:50～19:50 第 1 会場にて、NP・CNP 合同委員会特別企画【両学会の今後を考える -統合をめぐる-】を企画したことが案内された。

5. 第 42 回年会 (第 22 回日本臨床精神神経薬理学会と合同開催) 準備状況報告 (石郷岡次期会長)

以下の報告がなされた。

第 42 回日本神経精神薬理学会 (第 22 回日本臨床精神神経薬理学会と合同年会)

日 時：2012 年 10 月 18 (木) ～20 日 (土)

会 場：1. 栃木県総合文化センター / 2. 宇都宮東武ホテルグランデ

会 長：石郷岡 純 (東京女子医科大学医学部精神医学教室・主任教授)

6. 第 43 回年会準備状況報告 (仲田義啓次々期会長)

仲田義啓次々期会長から第 23 回日本臨床精神神経薬理学会会長 近藤 毅教授 (琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座) とコンタクトを取り具体的な準備に取り掛かることが報告された。統合問題もあるため、理事会および長期計画委員会も協力し、仲田次々期会長をサポートしていくことが確認された。

II. 審議事項

1. 2010 年度収支決算報告及び監査報告について (大熊理事)

1) 2010 年度収支決算について

2010 年度収支決算および神経精神薬理振興基金決算について報告がなされ、承認された。

なお、納入率が 80%を切っていることから、2011 年度第 3 回目の会費請求時に多年度未納者に対しては、会員資格喪失となる旨を通知し、次回理事会で対象者の確認と手続きについて協議することとなった。

2) 2010 年度監査報告書について

加藤監事、馬場監事より監査の結果、収支の記載が適正であると認められていることが報告された。

3) アジア神経精神薬理学会に関する負担金について

山脇理事長から AsCNP 運営費用は、組織会員として各国が負担する形を予定し準備が進められている、KCNP が 2 万ドルを負担するとの提案があったことから、NP が 100 万円、CNP が 100 万円を負担し、日本として 2 万ドルを負担する方向で調整中であることが報告された。

なお、日本からは当面、体制が安定するまでは、神経精神薬理振興基金から同分担金を負担し、セントラルオフィスの設置・運用費用についても同様に基金からの援助を得て、活動していく予定であることも報告された。

2. 合同大会の会計処理手続きについて（鈴木会長）

鈴木会長および野村理事（第21回CNP会長）から2011年合同年会における収益事業および余剰金の取扱いについての報告と以下の納税方針の説明がなされた。

CNPが法人化したことにより税法上納税の義務が生じる。合同年会ではランチョンセミナーや展示などの収益事業と見なされる事業があり、会計士確認のもと関係事業については、納税の方針で準備を進めている。

NPは任意団体のため従来の方針ではあるが、収支差額の取扱いにおいて、NPとCNPに差が生じることから、昨年の同意事項（すべて折半）のもと、CNP側の納付後の収支差額を折半するとの提案と方針を承認した。なお、NP側に財務指導が入った場合にも両学会の負担が折半になるよう手続きする点も確認がなされた。

3. 名誉会員推戴の件（池田理事）

名誉会員推戴候補者が提示され、小川紀雄先生を名誉会員へ推戴することが承認された。

また、今後、推戴の手続きについては総務委員会で規約に従い推戴候補者を確認し、名誉会員推薦条件を満たした方には、事務局から候補者の先生へ諾否を伺うことになった。

なお、協議の結果、推薦細則第2項において、70歳以上と定めているが、これを65歳へ改めることになり、本年の推戴候補者調査より適用することとなった。

4. 功労会員推戴の件（池田理事）

本年度から施行される功労会員候補者についても、名誉会員推戴候補者同様に総務委員会で規約に従い推戴候補者を確認し、功労会員推薦条件を満たした方には、事務局から候補者の先生へ諾否を伺うこととなった。

なお、諾否の確認にあたっては、現役継続のご意思を尊重するご案内とすることが確認された。

5. 新評議員推薦の件（山脇理事長）

以下の4名が推薦されており、審議の結果、新評議員候補者としてこれまで承認された11名とともに評議員会へ推薦することが承認された。

（申請受付順：敬称略）

下田和孝（獨協医科大学精神神経医学講座）

高松幸雄（東京医学総合研究所）

荻野洋子（東京医学総合研究所）

亀井浩行（名城大学薬学部病院薬学研究室）

6. 新入会希望者承認の件（山脇理事長）

本年3月1日から5月31日までに19名の入会申込者があったことが報告され、全員が承認された。

7. その他

山脇理事長からアジアでも主導的な役割を果たすためにも、是非、日本からCINPメンバーに登録してもらい、国際的な参加をお願いしたいとの依頼がなされた。

以上

平成23年6月3日（金）
日本神経精神薬理学会
理事長 山脇 成人